

3. 家族の状況と家族意識

3-1. 家族の状況 (FS2.3.4)

独身者のうち、単身者は【継続独身】の男性が最も多く、30.0%であり、【若年独身】の男性(14.0%)の2倍以上になっている。女性の単身率は【若年独身】、【継続独身】とも7%程度であり、差はみられない。

一方、【若年無子家族】では、「夫婦のみ」の世帯が85%と大半を占めている。

因みに男性における「本人の長男率」は未婚を問わずどのグループでも概ね7割となっている。

図表3-1. 同居家族と人数および兄弟・姉妹内地位(各単数回答)(基数:全体)

各グループN=150	同居家族								同居人数					本人の長男率
	単身	(計) 同居者あり	同居者						本人のみ	2人	3人	4人以上	平均人数 (人数)	
			親	子ども	祖父・祖母	兄弟・姉妹	恋人	その他						
若年独身男性	14.0	86.0	85.3	0.0	12.7	41.3	0.7	0.0	14.0	5.3	34.7	46.0	3.33	68.7
継続独身男性	30.0	70.0	64.7	7.3	1.3	11.3	1.3	0.7	30.0	24.7	32.7	12.7	2.35	70.0
若年独身女性	7.3	92.7	90.0	0.0	16.7	50.0	0.7	1.3	7.3	4.7	36.0	52.0	3.69	
継続独身女性	6.7	93.3	84.0	16.0	5.3	39.3	0.0	2.7	6.7	12.7	44.0	36.8	3.37	

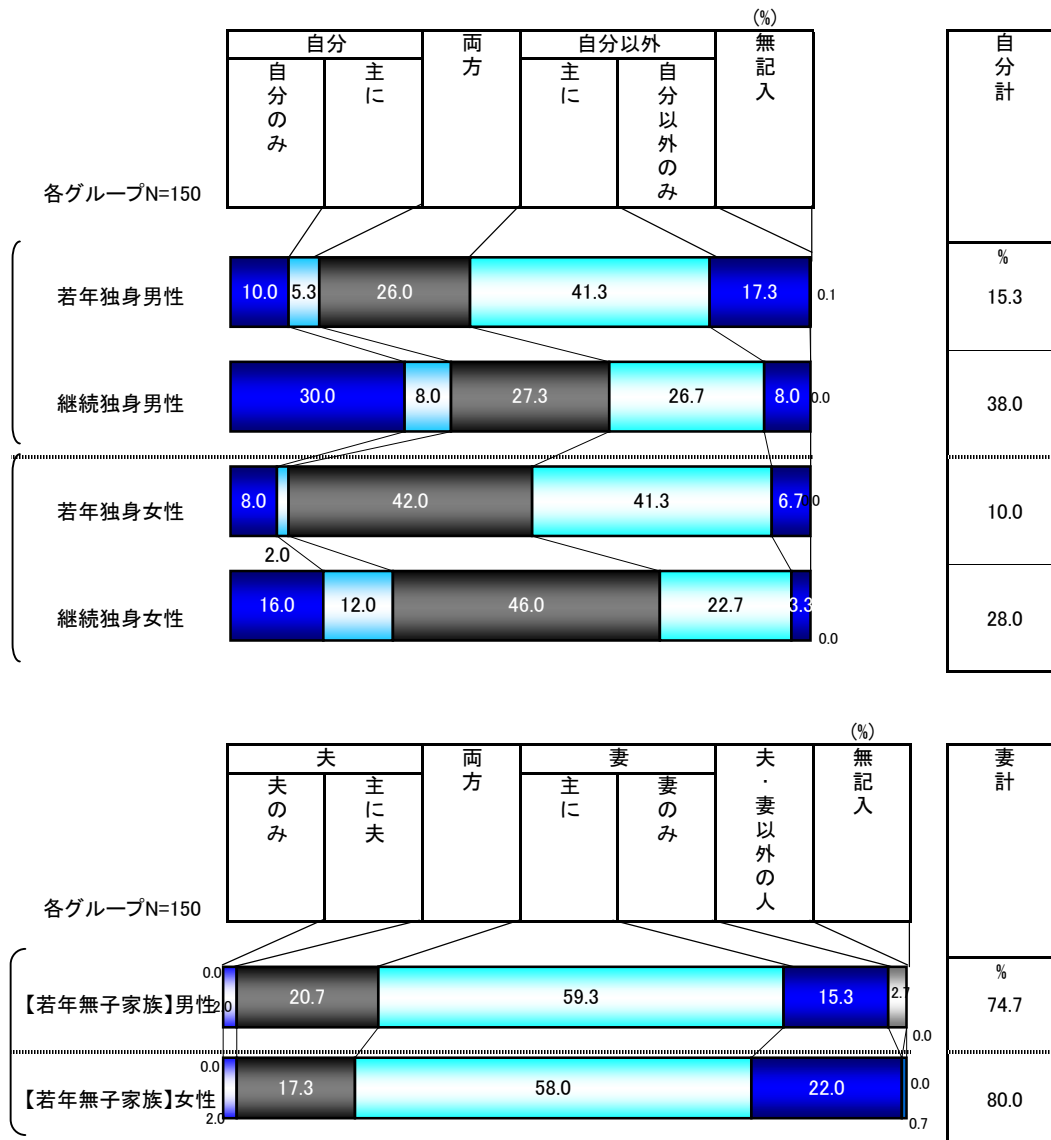
各グループN=150	同居家族						同居人数				本人の長男率
	配偶者	自分の親	配偶者の親	兄弟・姉妹	祖父・祖母	夫婦のみ	2人	3人	4人以上	平均人数 (人数)	
若年無子家族男性	97.3	12.7	2.0	2.7	1.4	84.7	84.7	7.3	8.0	2.27	68.7
若年無子家族女性	98.0	6.7	8.0	4.0	1.3	85.3	86.0	4.0	10.1	2.31	

3-2. 家事の実行者(Q10)

家事の実行者をみると、単身者の多い【継続独身】の男性では「自分が行う」(自分のみ+主に自分)割合が38.0%と最も高い。次いで【継続独身】の女性(28.0%)が高く、【若年独身】の場合は1割台にとどまっている(男性:15.3%>女性:10.0%)

一方、【若年無子家族】の場合は「妻のみ」が1~2割(男性:15.3%、女性:22.0%)、「主に妻」が概ね、6割(男性:59.3%、女性:58.0%)であり、主たる家事担当者は圧倒的に妻であるケースが多い。

図表3-2. 家事の実行者(単数回答)(基数:全体)



3-3. 家事の負担感(Q11)

家事の負担感は、どのグループでも男性より女性の方が高い。

【男性】

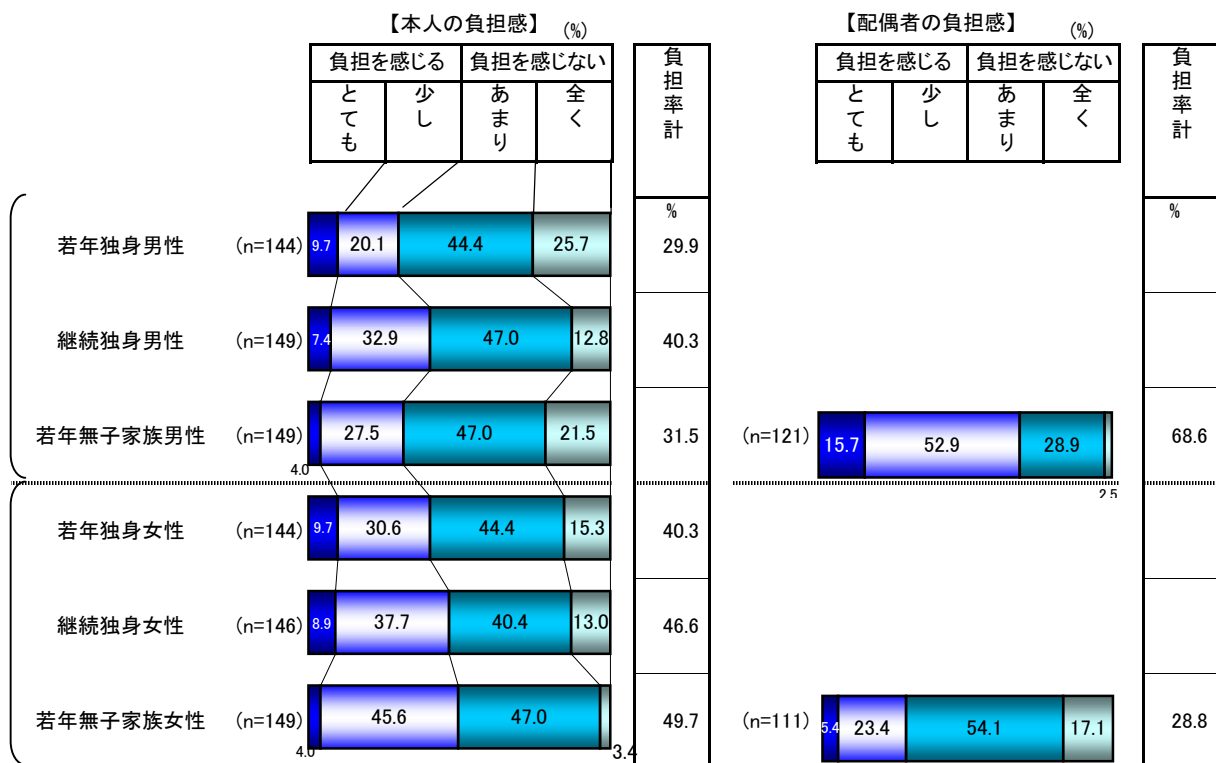
【継続独身】では、負担を感じる人が4割と他グループに比べ多い。

なお、【若年無子家族】では、配偶者について68.6%が「負担を感じている」(とても+少し)と受けとめている。

【女性】

女性の場合、家事負担感は【若年無子家族】(49.7%)が最も高く、【継続独身】(46.6%)がこれに続き、【若年独身】(40.3%)が最も低い。

図表3-3. 家事の負担感(単数回答)(基数:無回答者を除く全体)



3-4. 家族に対する意識

3-4-1. 『家計は主に夫の収入だけで賄うべきだ』に対する意見(Q9-⑦)

【男性】

『家計は主に夫の収入だけで賄うべきだ』の肯定者は、最も多い【若年無子家族】でも4割強に留まっている。独身では2割に過ぎない。

【女性】

男性同様、肯定者は少ない。最も多い【継続独身】でも3割強である。

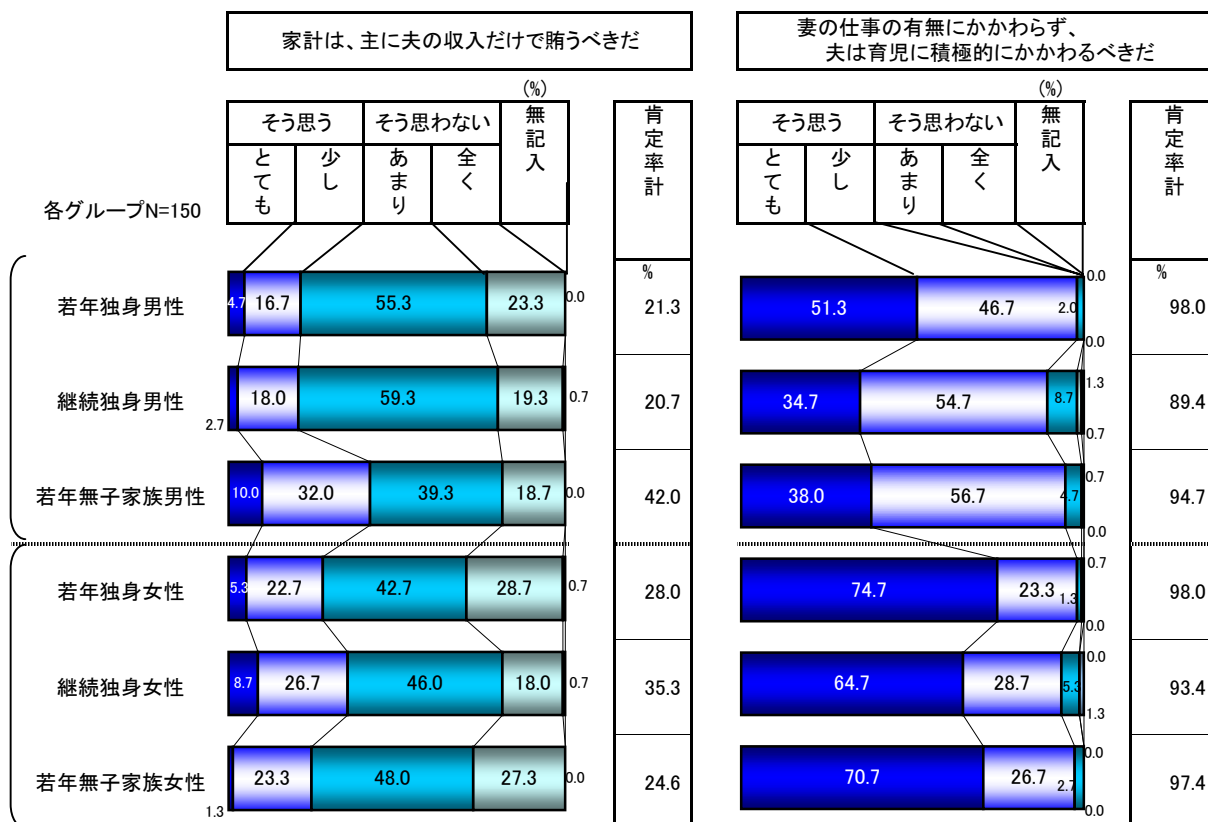
【若年無子家族】では更に少なく、4人に1人に留まっている。

3-4-2. 『妻の仕事の有無にかかわらず、夫は育児に積極的にかかわるべきだ』に対する意見(Q9-⑨)

ほぼ全員が肯定しているが、積極的肯定者の割合は男女で大きな開きがみられる。

女性の場合は「とてもそう思う」が7割前後に達しているのに対し、男性では最も割合の高い【若年独身】でも5割にとどまる。【継続独身】や【若年無子家族】の男性では3～4割程度となっている。

図表3-4-1. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



3-4-3. 『子どもに対する父親・母親の役割を区別すべきでない』に対する意見(Q9-⑩)

【男性】

どのグループも6割台が「区別すべきでない」と答えているが、積極的に肯定する人は2割～3割弱である。

【女性】

どのグループも7割前後が肯定しており、男性より更に肯定率が高くなっている。しかも、【継続独身】には積極的肯定者が4割弱と多い。

3-4-4. 『意識して子どもを持たない夫婦は国の将来を考えると無責任だ』に対する意見(Q9-⑧)

【男性】

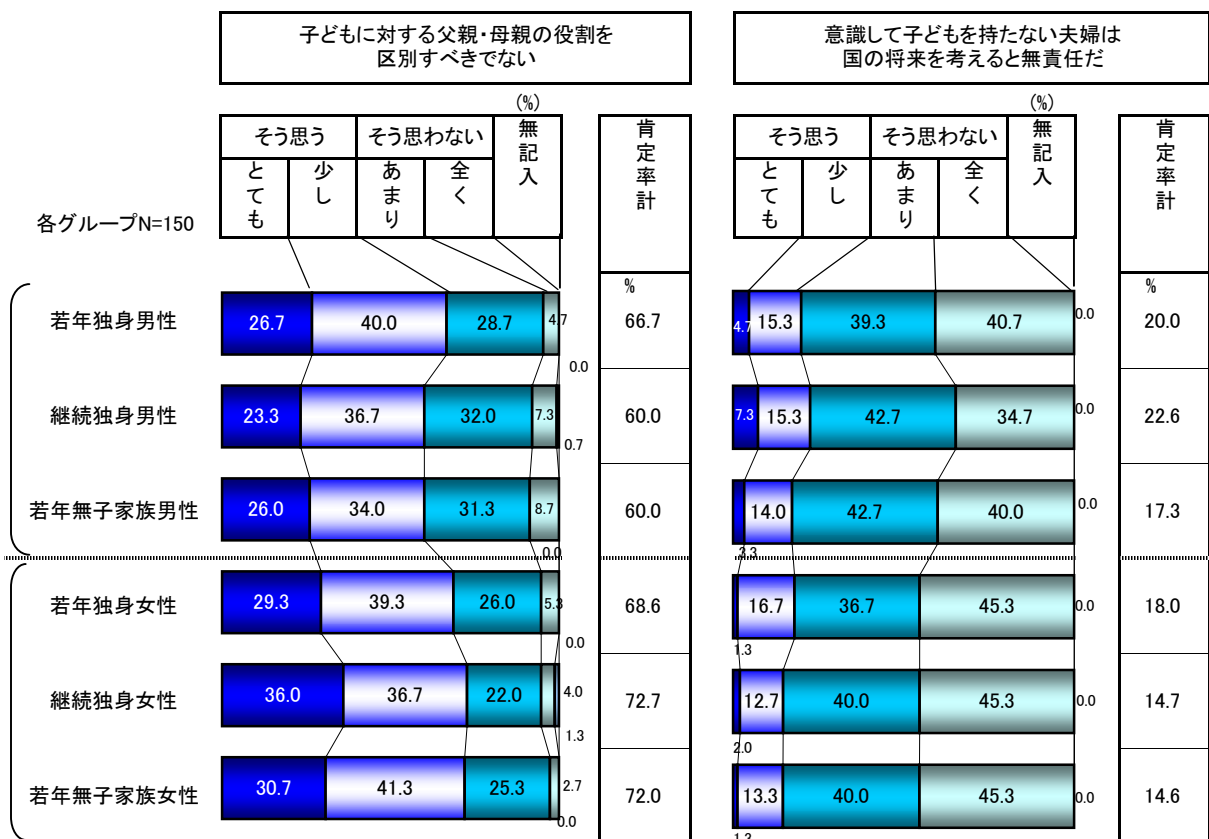
どのグループでも肯定する人は少ない。

独身グループでは2割強、【若年無子家族】では2割弱しか肯定していない。

【女性】

男性より更に肯定者は少なく、どのグループも2割に満たない。

図表3-4-2. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



3-4-5. 『親の老後は子どもが面倒を見るべきだ』に対する意見(Q9-12)

『親の老後は子どもが面倒をみるべきだ』という意見については、どのグループも6割前後が肯定しているが、唯一、【若年無子家族】の女性は肯定率が52.0%にとどまっている。

3-4-6. 『親と同居しなければならないとしたら、男性側の親と同居すべきだ』に対する意見 (Q9-13)

【男性】

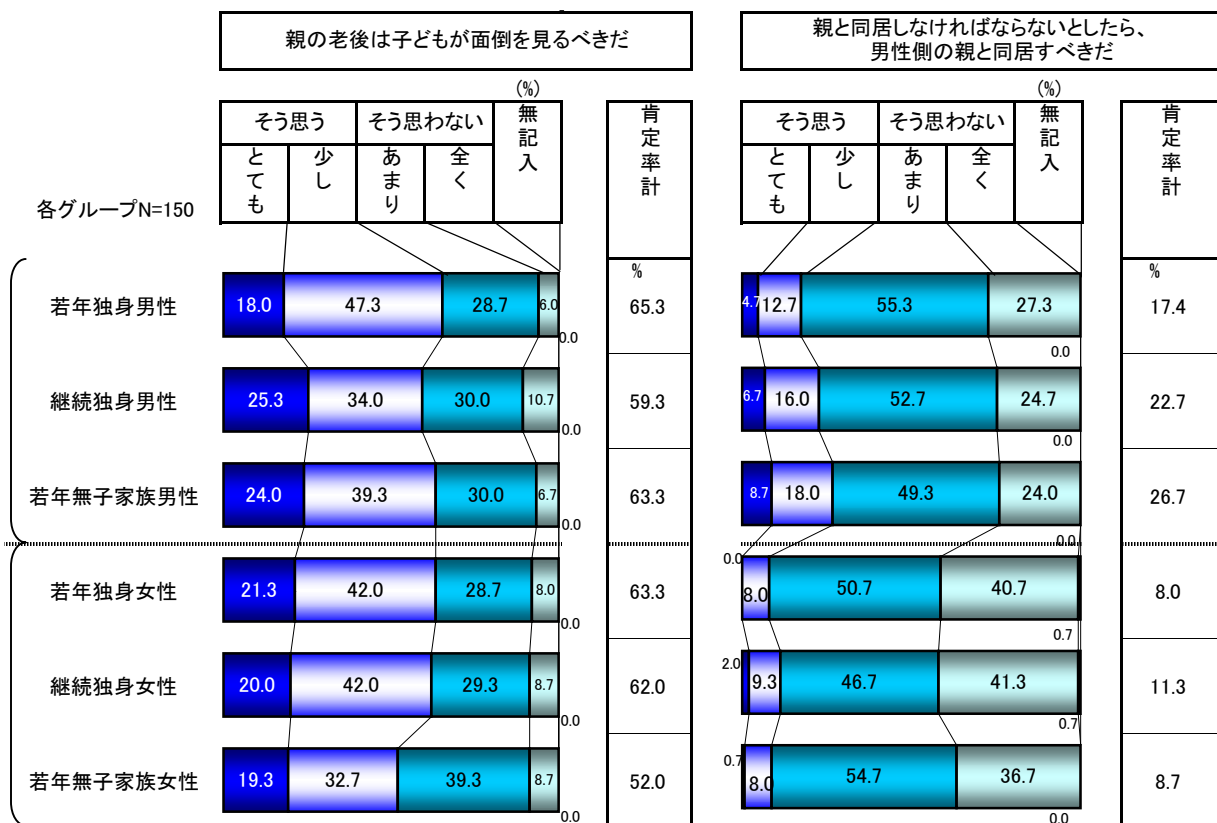
どのグループの男性も、この意見に肯定している人は2割前後に留まり、5割前後が「あまりそう思わない」と答えている。特に【若年独身】の男性に多く見られる。

【女性】

肯定者は男性より更に少なく、どのグループも1割前後に過ぎない。

「全くそう思わない」という強い否定者がどのグループにも4割前後存在する点は男性と異なる。

図表3-4-3. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



3-5. 子どもの位置付け(Q15)

あなたにとって子どもとはどのようなものかという質問に対しては、どのグループでも「生きがい・喜び・希望」という回答が6～7割を占めており、圧倒的に多い。

以下、「無償の愛を捧げる対象」「夫婦の絆を深めるもの」「独立した一人の人間」といった回答が上位を占めている。

【男性】

男性では、これらに加えて「自分の血を後世に残せるもの」という回答も多く、どのグループでも3割以上になっている。

グループ別に特徴をみても、「生きがい・喜び・希望」の割合は【若年独身】が最も高い。

また、【継続独身】では「無償の愛を捧げるもの」「夫婦の絆を深めるもの」という回答が他グループに比べ低い一方で、「社会的資産」という回答が1割以上みられ、子どもに対して、家庭内の役割だけでなく、社会的役割を意識している様子がうかがえる。

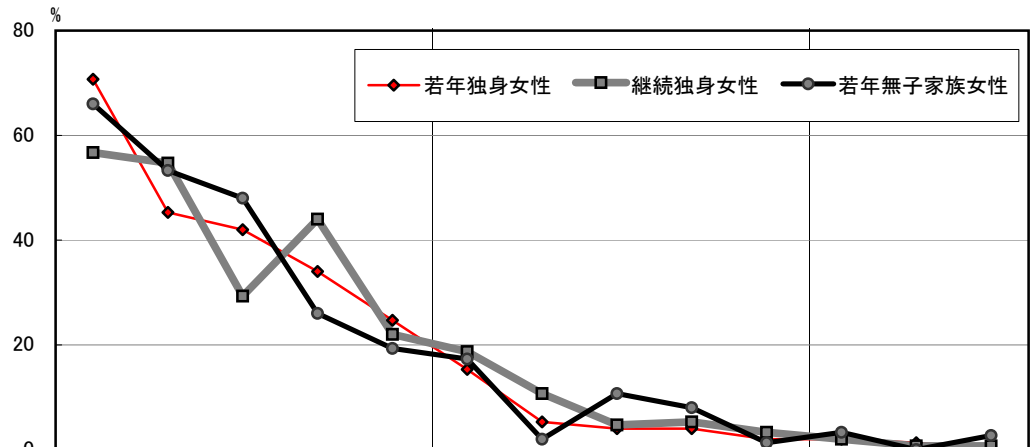
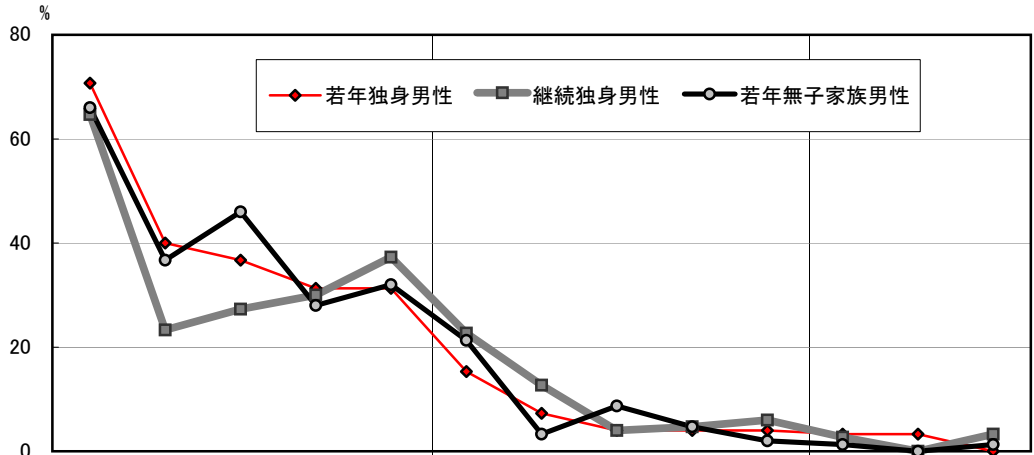
【女性】

女性も男性と同様、【継続独身】では「生きがい・喜び・希望」「夫婦の絆を深めるもの」といった認識を持つ人は少ない。逆に相対的に多いのは「独立した1人の人間」「社会的資産」である。

図表3-5-1. 子どもの位置付け(回答3つまで)(基数:全体) 各グループN=150

		若年独身	%	継続独身	%	若年無子家族	%
男性	1位	生きがい・喜び・希望	70.7	生きがい・喜び・希望	64.7	生きがい・喜び・希望	66.0
	2位	無償の愛を捧げる対象	40.0	自分の血を 後世に残せるもの	37.3	夫婦の絆を深めるもの	46.0
	3位	夫婦の絆を深めるもの	36.7	独立した一人の人間	30.0	無償の愛を捧げる対象	36.7
	4位	独立した一人の人間	31.3	夫婦の絆を深めるもの	27.3	自分の血を 後世に残せるもの	32.0
	5位	自分の血を 後世に残せるもの	31.3	無償の愛を捧げる対象	23.3	独立した一人の人間	28.0
女性	1位	生きがい・喜び・希望	70.7	生きがい・喜び・希望	56.7	生きがい・喜び・希望	66.0
	2位	無償の愛を捧げる対象	45.3	無償の愛を捧げる対象	54.7	無償の愛を捧げる対象	53.3
	3位	夫婦の絆を深めるもの	42.0	独立した一人の人間	44.0	夫婦の絆を深めるもの	48.0
	4位	独立した一人の人間	34.0	夫婦の絆を深めるもの	29.3	独立した一人の人間	26.0
	5位	自分の血を 後世に残せるもの	24.7	自分の血を 後世に残せるもの	22.0	自分の血を 後世に残せるもの	19.3

図表3-5-2. 子どもの位置付け(回答3つまで)(基数:全体)



各グループ
N=150

	生きがい・喜び・希望	無償の愛を奉げる対象	夫婦の絆を深めるもの	独立した一人の人間	自分の血を後世に残せるもの	自分の分身	社会的資産	配偶者の分身	経済的負担を与えるもの	老後の面倒を 見てくれる人	精神的負担を与えるもの	ライバル	その他
若年独身男性	70.7	40.0	36.7	31.3	31.3	15.3	7.3	4.0	4.0	4.0	3.3	3.3	0.0
継続独身男性	64.7	23.3	27.3	30.0	37.3	22.7	12.7	4.0	4.7	6.0	2.7	0.0	3.3
若年無子家族男性	66.0	36.7	46.0	28.0	32.0	21.3	3.3	8.7	4.7	2.0	1.3	0.0	1.3
若年独身女性	70.7	45.3	42.0	34.0	24.7	15.3	5.3	4.0	4.0	2.0	2.0	1.3	0.0
継続独身女性	56.7	54.7	29.3	44.0	22.0	18.7	10.7	4.7	5.3	3.3	2.0	0.7	0.7
若年無子家族女性	66.0	53.3	48.0	26.0	19.3	17.3	2.0	10.7	8.0	1.3	3.3	0.0	2.7

(%)

3-6. 子どもに残したいもの・伝えたいもの(Q18)

子どもに残したい・伝えたいものとしては「生きていく上での強さ・知恵」がどのグループでも最も多く、男性では6～7割、女性では7割以上となっている。

以下、女性では「愛」が4～5割、「親子の絆」が3～4割、「人生の素晴らしさ」が3割前後という順位になっているが、男性の場合は「愛」、「親子の絆」、「人生の素晴らしさ」、「自分の人生観」が2～3割で並んでいる。

男女別にみると、「愛」、「親子の絆」は男性より女性の方が高く、「自分の人生観」や「財産」は男性の方が高い。

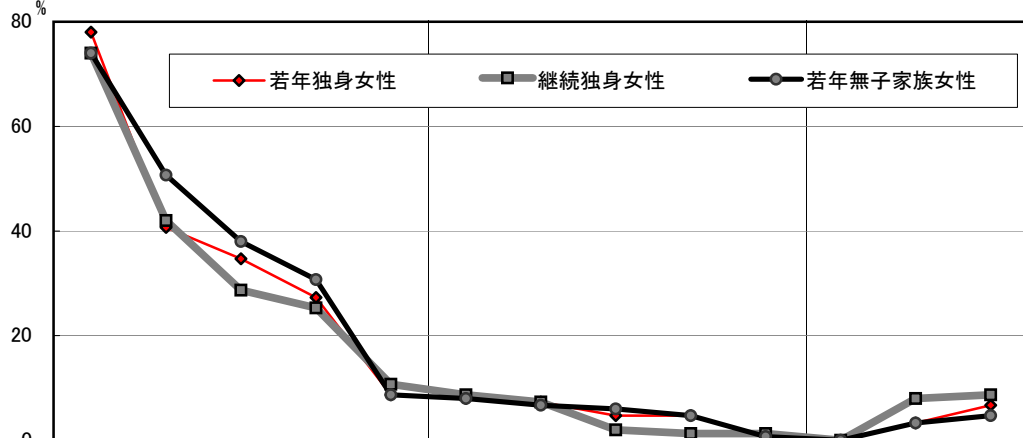
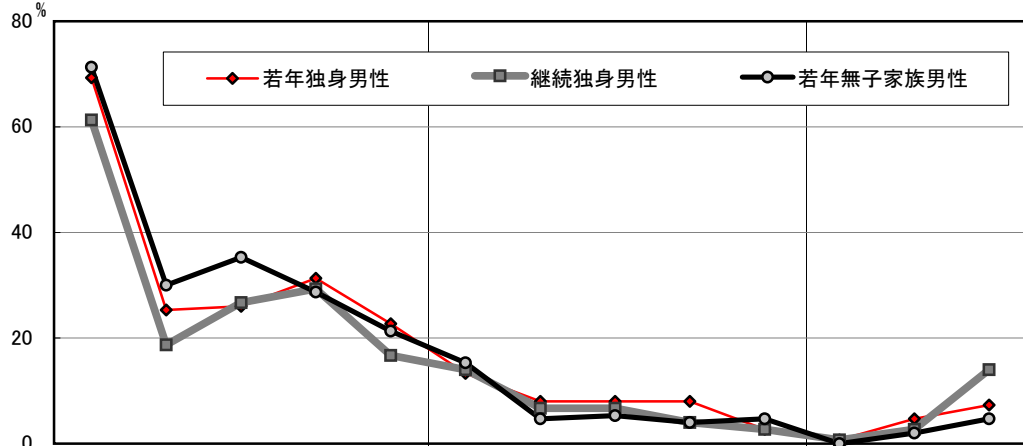
【男性】

グループ別にみると、独身グループは「生きていく上での強さ・知恵」に次いで「人生の素晴らしさ」が3割程度で続いているが、【若年無子家族】では「親子の絆」(35.3%)が第2位に挙げられ、独身グループに比べて高い。

【女性】

女性の場合は、各グループ間に大きな違いはみられないが、「生きていく上での強さ・知恵」は【若年独身】の割合が最も高く、その他の上位項目は【若年無子家族】が最も高い。

図表3-6. 子どもに残したい・伝えたいもの(回答3つまで)(基数:全体)



各グループ
N=150

各グループ	生きて行く上での強さ・知恵	愛	親子の絆	人生の素晴らしさ	自分の人生観	財産	家訓・先祖から守ってきたこと	自分のつきあいやネットワーク	自分の夢	仕事・家業	築いてきた地位	その他	特にない
若年独身男性	69.3	25.3	26.0	31.3	22.7	13.3	8.0	8.0	8.0	2.7	0.7	4.7	7.3
継続独身男性	61.3	18.7	26.7	29.3	16.7	14.0	6.7	6.7	4.0	2.7	0.7	2.7	14.0
若年無子家族男性	71.3	30.0	35.3	28.7	21.3	15.3	4.7	5.3	4.0	4.7	0.0	2.0	4.7
若年独身女性	78.0	40.7	34.7	27.3	8.7	8.0	7.3	4.7	4.7	0.7	0.0	3.3	6.7
継続独身女性	74.0	42.0	28.7	25.3	10.7	8.7	7.3	2.0	1.3	1.3	0.0	8.0	8.7
若年無子家族女性	74.0	50.7	38.0	30.7	8.7	8.0	6.7	6.0	4.7	0.7	0.0	3.3	4.7

(%)